



Niihama ワーク・ライフ・バランス通信

平成28年8月2日、市長・副市長・教育長の3名が“イクボス宣言”を行いました。それに先立って市役所幹部職員に対し、イクボス研修を実施しましたので、その様子をレポートします。

「イクボスが組織と地域を変える！」

講師 NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事

(株) ファミリーエ 代表取締役 徳倉 康之 さん



「イクメン」という言葉をご存知の方はどのくらいいらっしゃるでしょうか？さすがに以前ファザーリング・ジャパン（以下FJと略す）安藤代表の研修も受講されている方も多いため、受講者全員の手が挙がりました。全国的にみてもその認知度はかなり高くなっています。FJが笑顔の父親を増やすために活動を続けて10年。共働き家庭は増え続け、技術・家庭科が男女で必修となったイマドキ子育て世代と合致するようにイクメンも増え、育休を取ってみたいという男性が過半数を超えるなど、世の中は変化してきました。しかし現実には・・・経営者や管理職世代の固定化した仕事のやり方や価値観、男女の役割意識が妨げとなり、2.65%（平成27年度、これでも過去最高）しか取得していません。それも取得日数は5日ほどです。FJの活動も父親の笑顔を取り戻すための働き方改革へシフトしてきたそうです。

新しいマネジメントが求められている

ここで挙手ワーク。

「あなたは4人の部下を持つ管理職。本日中に対応しなければならぬ緊急の仕事が舞い込んできました。あなたならどの部下に仕事を頼みますか？」



部下の能力だけで選ぶとレベルの高い部下に頼むという方が多かったのですが、そこに個々のスケジュールや制約、情報を加味すると結果が全く変わりました。日頃からコミュニケーションをとっていないければ的確な状況判断、指示は出せないということがよくわかります。24時間戦える企業戦士ばかりなら能力の高い人に頼めば話は早いですが、なにかしらの制約を持つ人が7割と言われる現在においては「部下の価値観」がマネジメントの重要な要素となります。おもねる必要はありませんが理解しようとするべきです。特に若い方は大企業や公務員などの安定や安心よりも、中小でも自分の能力や価値観に合うことを重視して選択するようになってきました。少子高齢化で労働力人口が減少するなか、優れた人材を早い者勝ちで取り、やめさせないことができるのはイクボスマインドのあるところ。お金をかけたり、新しい制度を作らなくてもマインドチェンジで選ばれるようになるのです。





Niihama ワーク・ライフ・バランス通信

イクボスとは？

イクボスは、育児をするボスではありません。また育児だけを支援するのでもありません。部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援、自らも仕事と私生活を楽しむ、組織の成果を出す、というもの。ハンディのある人もない人も含めたチームをまわす手法です。

今なぜイクボスなのか？

高度経済成長が終わり、バブル崩壊、かつてない少子高齢化時代へと変化してきました。次のような状況が確実に表れています。

- ・人口動態の変化・・・共働き世帯数が片働き世帯を上回って20年余り。家事も育児も介護も夫婦で分担し合うのが主流になり、男性も仕事以外に時間を費やす必要性が高まっている。
- ・制約社員の増加・・・様々な事情（育児・介護・高齢、病気など）があっても働き続けたい、働き方が限定される人が増えている。
- ・大介護時代到来・・・仕事をしながら介護をしている人のうち4割が男性。高齢化はさらに進むが、少子化で介護の担い手は減る一方。イクメンからケアメンにならざるを得なくなってきた。
- ・ダブルケア・・・晩婚化・晩産化に伴い、育児と介護の負担を同時に担う状態。コストと時間がかかる。一定期間休めればなんとか乗り切れることもあるが、一旦離職してしまうと再就職が難しくなり、社会的コストが増加する。
- ・世代間の価値観の違い・・・1万人の父親母親を対象に行った調査で、家族で一緒に過ごす最も大切な行事は、40～60代では正月が過半数を超えるが、20～30代だと子どもの誕生日のほうが上回る。また若い世代と上の世代で差が大きいのは結婚記念日で、大切に考えるところに違いが見られる。

従来は主に男性・正社員・終身雇用・時間制約なしのピラミッド型で、誰かが辞めても替わりの人はいくらでもいましたが、現在は多様な雇用形態で、従来なら辞めていたような制約のある人も多いフラット型。人手不足の業界も多くなっています。だからこそ持っている能力を活かせるワークライフマネジメントでないと今後持続できなくなってしまう。今すぐ変わらなくてもすぐには影響ないかもしれませんが、困ってから動くのか今から対応していくのか、考えてみてください。

ワーク・ライフ・バランスとワーク・ライフ・コンフリクト

ワーク・ライフ・バランスが実現できない状態に陥ることをワーク・ライフ・コンフリクトといいます。そうするとモチベーションが5～6割も下がり、仕事に意欲的に取り組め





Niihama ワーク・ライフ・バランス通信

なくなります。その結果、過労やメンタル不調、アイデンティティーが失われるようなことにもなってしまいます。ワーク・ワークで問題なければいいのですが、仕事以外の生活で大事にしたいこと、取り組みたいこと、取り組む必要がある人が多くなっているため、人材を活用するためには支援する必要があります。

女性活躍・イクメン・イクボスは3点セット

国は女性活躍、一億総活躍を経済戦略として進め、ワーク・ライフ・バランスを実現し、家族の時間を増やして、少子化のスピードを少しでも遅らせようとしています。これらを進める時イクボスは必須です。男性の育休を増やそうと世界的にも高水準に給付金を上げても取得率はそんなに上がりませんでした。しかし、広島県、三重県、丸亀市などのようにトップが取ると変わります。(平成26年度、三重県の事業所は6.3%、県庁職員は16%)取れる風土ができてくるからです。また、育休で人が抜けてしまうのはピンチですが、その穴を埋めるために効率化するので、生産性が上がるチャンスでもあります。

コミュニケーションをよくしよう!

最後に行動分析学マネジメントについてもご紹介いただきました。

ある行動をした時に「強化・消去・弱化」のうちどういう対応をするか、言葉だけでなく態度なども含めたコミュニケーション次第でその後の人の行動は変わってしまうといいます。上司・同僚らとの関わりでいい職場にも悪い職場にもなり得ます。イクボスとしてどう対応していきますか?

研修のあと、市長・副市長・教育長がイクボス宣言!



発行：新居浜市男女共同参画課

